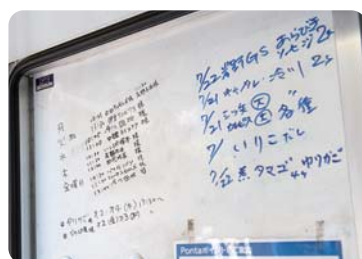


ジュース、洗剤やティッシュペーパーなどがギッシリ。欲しい商品は、リクエストすれば次の機会に持ってきてくれます。移動の不便さを解消すると同時に、密集を避けながら安心して、さらには満足いく買い物ができるので、住民から喜ばれているのも納得です。

2〜3年前から移動販売を導入したローソン函南町上沢店。巡回する地区の選定や、現地での駐車場の確保の橋渡しなどを社協が行った縁がありました。採算が取れない地域では継続が難しいという課題がありました。今回、赤い



リクエストが書かれた販売車のホワイトボード

羽根共同募金の助成金を財源に社協がガソリン代を負担して解決することができました。住民の1人で、社協と住民たちの橋渡し役となっている渡辺さんは「かなみお買い物サポート」のメリットは思っていた以上に大きいと言います。「私などが少し



冷川団地の橋渡し役、的存在である渡辺和信さん

離れたスーパーへ行く時に買い物を引き受けることもありますが、小さいバックや少量のものは頼みづらいという人が多い。移動販売車は団地のすぐそばに来てくれるから、自分で買い物するにも、人に頼むにしても気軽にできるようです。また買い物に便利になるだけでなく、住民とコミュニケーションを取るきっかけにもなるのと、二人暮らしの高齢者が多く様子を気にかけているものの、用事がないと訪ねづらい。今は移動販売が来てくれると『ローソンが来たよ。買い物行く?』などと声を掛ける口実ができ、元気がどうか様子を見ることができると、見守り支援にもつながっているようです。住民同士の交流の場にもなり、団地や山間地に不可欠な自助・共助・公助の一端を担っていると言えそうです。赤い羽根共同募金の活用により、地元住民の

ニーズに合ったサービスを事業化でき、まさに、たすけあいの輪が広まっている事例だと感じられました。赤い羽根共同募金が、じぶんの町を良くするしくみとして、しっかりと地域福祉の推進につながっています。



移動販売を担当する 渡邊さん

売上アップというよりも地域貢献の意味で移動販売を始めました。バスで買い物に出掛けると時間がかかるし、特に高齢者は重いものを持って歩くのが大変。生活に欠かせない買い物サポートは、利用者から「来てくれて助かるよ」と言われて、やって良かったと感じます。近くで買い物ができるから、夏は特に「アイスが溶けない」と喜ばれました。

お買い物で
地元をサポート!



赤い羽根共同募金が、ここを支援!

採算が
取りづらい地域…

助成金を活用して
ガソリン代をカバー!

コロナ禍で
声掛けができない…

チラシを活用して
安否確認も気軽に!

コロナ禍にも
真価を
発揮する

赤い羽根共同募金



今年も「赤い羽根共同募金」の募金運動が始まります。
寄付金は、地域福祉や災害時など様々な場面での支援に活用されています。
最近では、新型コロナウイルス感染症の影響下でも、その真価を発揮。
そこで、コロナ禍に対応した赤い羽根共同募金の助成金を活用した事業取材しました。



左から、社協の中村美那子さんと鈴木温子さん

函南町の「冷川（ひえかわ）団地」には、週に2回、地元のローソンから移動販売車がやってきます。町の社会福祉協議会（社協）が、赤い羽根共同募金の助成金を使ってローソン函南町上沢店に協力を依頼し始まった「かなみお買い物サポート」です。冷川団地は公共交通機関が通っていないうえ、高齢者が多いこともあり、自家用車を持っていない世帯も多く、新型コロナウイルス感染症への不安から外出を控える人が増えていまし

た。そこで、「新しい生活様式」が提唱されてきたことをきっかけに、社協の生活支援コーディネーターの中村さんが、共同募金担当の鈴木さんと連携して、コロナ対策を踏まえて、今までの当たり前を変え、お店が移動してくることを取り入れようと発想。赤い羽根助成事業として実現させました。

到着した移動販売車の中には、野菜や卵などの生鮮食品から、惣菜、レトルト、お米、パックの牛乳や



不便さや3密の不安を解決!
かなみお買い物サポート